

平成28年度 自己評価実践報告書

学 校 名 福島県立富岡高等学校

I 自己評価の概要

1 『学校経営・運営ビジョンについて』

(1) 『学校経営・運営ビジョン』(別紙参照)

(2) 教育目標、重点努力事項等作成のねらい、意図等

国際人として社会をリードする人材を育成するために教育目標を3つの柱、重点努力目標を4つの柱として作成した。

(3) 作成のプロセス

震災及び原発事故により、県内外3か所に分かれた教育活動を余儀なくされていることから、学校評価委員会を開催することが難しいため、各部主任や担当者から昨年度の反省と問題点をまとめてもらい、校長と勉強会を含めた面談をする形で重点目標の見直しをして「学校経営・運営ビジョン」の検討を行い、職員会議の審議を経て最終決定とした。

2 校内組織体制について

(1) 組織図等(別紙参照)

(2) 組織作成のねらい

各サテライト間の情報の共有化を図り、公務運営を円滑に行うことができるよう、サテライト統括主任を置く等の対応をした。

3 自己評価年間計画について

(1) 年間計画表(別紙参照)

(2) 作成のねらい

サテライトという状況下ではあるが、年間計画を作成し組織的で客観的な学校評価を実施し、教育活動のPDCAサイクルの構築を図った。

(3) 自己評価年間実施状況

11月に中間評価、3月に年度末評価を実施した。

II 評価結果の概要

1 実施方法等

生徒、教職員を対象にアンケートを行った。親元から離れ寮生活をしている生徒が多いことなどから、保護者、評議員を対象としたアンケートは実施できなかった。

評価基準・コメント等、自己評価票に記載し、学校評議員及び保護者に公表した。ホームページで結果を公表するなど工夫した。

また、休校関連行事、記録誌の発行などについて、教員からアイデアを導き出すために週1回ペースで率直な意見を出し合う会議を開いた。

2 アンケート及び回答数

評 価	アンケート調査			教員からの意見聴取会		
	対象数	回答数	割合	対象数	回答数	割合
教 職 員	14	14	100%	14	14	100%
教 職 員 以 外	生徒	62	62	100%		
	保護者					
	学校評議員					

・保護者、学校評議員が学校を訪問する機会が限られており、HPや広報誌等で伝えていくことが重要である。

3 評価基準について

評価	1	2	3	4
評価基準	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりよくあてはまらない	まったくあてはまらない

・肯定的な1・2合計と否定的な3・4の合計を比較し、グラフ化することにより見やすくした。

・概ね肯定的な評価が多かったが、点数化し比較することも今後検討していきたい。

4 年度末評価のまとめ

(1) 年度末評価実施の目的、意図

年度初めに示した教育目標や「学校経営・運営ビジョン」の達成状況を、アンケート調査の結果をもとに自己評価することで、本校の教育活動への理解を図る。また、困難な状況下にある本校の在り方について、御意見や要望を伺うことにより学校運営の改善、充実に活かす。

(2) 年度末評価結果の分析及び結果状況（別紙「評価書」参照）

(3) 重点努力事項に対する達成状況等（別紙「評価書」参照）

(4) 分析に基づく改善の方向

I 学力の向上

・授業トレーニングの成果で、バドミントンやサッカーにおいて優秀な成績を上げることができた。最新のトレーニング法を導入するなどの研修に努めた。

・各サテライトで、小論文指導や読書などを行い、基礎学力の定着を図った。また、小論文指導や面接指導などに取り組んだが期間が短く、結果につながらなかったという昨年の反省から、取り組み時期を早くした。

II 進路指導の充実

・進路意識を高めるため、講演会等を開催した。また、福島大学との高大連携の一つとして、大学において講義を聴講する機会を設けることにより、大学進学への意識が高まった。

III 豊かな心の育成

・カウンセラーの適切な活用により、生徒の悩み等を理解することができた。

・性教育の講演会を開催し、教養を深めることができた。

IV 社会との連携

・始業式を磐梯青少年交流の家で開催した。休校前最後の1年を充実したものとするため全校生で決意をあらたにスタートを切ることができた。あわせて、LPGA 小林浩美会長の講演会を開き、世界で活躍するための心構え等について話を聞くことができ、大変良い刺激となった。

・夏の集いを東京都の国立オリンピック記念青少年総合センターで行い、普段見ることのできない芸術鑑賞教室や首都圏の大学見学などを行うことができた。この行事を通して富高生としての一体感を一層高めることができた。

・冬の集いではスキー、スノーボード実習を通して同じ富岡高校性としての連帯感を高めることができた。

・サテライト協力校と連携し、生徒会行事等に参加したり、サテライト校合同で行事を実施するなどして、交流を図ることができた。

・バドミントン部の全国高校総体男女個人優勝や国体優勝、男女サッカー部の県大会での活躍により、全国に離れ離れになっていた富岡町の方々から多くの支援や応援に駆け付けていただいた。本校の頑張りが富岡町の住民の励みになったものと確信している。

・マスコミ等に多く取り上げられたことにより、本校の状況を地域の方々に伝えることができた。

III 広報の概要

1 目的や意図

本校の教育活動の成果や課題について保護者や地域住民に説明責任を果たすとともに、開かれた学校づくりを推進し、本校に対する理解を深めて協力を得てさらに、本校の教育について広範な意見を聴取することを可能とし、教育活動のさらなる改善を目的とする。

2 実施計画及び実施状況

4月：「学校経営・運営ビジョン」公表

10月：アンケートの実施

11月：アンケート結果の分析、公表

2月：年度末自己評価の実施

3月：外部評価員による学校評価・評価結果の公表

3 配布対象、配布時期、配布方法等

配布対象：評価者（生徒、保護者、教職員、学校評議員、地域住民）

配布時期：4月（学校経営・運営ビジョン）

11月（アンケート・アンケート結果・分析）

3月（年度末自己評価・学校評議員による学校評価）

配布方法：印刷物の配布、HPへの掲載

サテライト保護者会、PTA役員会、学校評議員との面談

4 実施してみたの反省点等

HPへの掲載の他、サテライト保護者会時に校長が「学校経営・運営ビジョン」についてわかりやすく説明し理解を求めた。猪苗代高校サテライトと三島長陵高校学校間連携校では、遠方から通学していることから保護者会を開催できないため、郵送やHP等で広報が重要である。

IV 次年度へ向けて

1 卒業生（同窓生）に向けて、休校後の各種書類の発行窓口がふたば未来学園高等学校になること、施設の管理等は高校教育課が窓口となることをHPでお知らせをする。また、同窓会事務局の継続を周知した。

2 終わりに

生徒募集停止により、29年3月末日をもってしばらくの間休校となります。いつの日か再開する時にこの学校評価の効果的に活用されることを願っております。